



“門前の小僧”ならぬ門内の二刀流

物事を始める場合、そこには必ずご縁と呼べるようなきっかけが存在します。私がイタリア語を始めることになったのも、素晴らしいご縁があったからです。大学を出て会社勤めをしていた私は、人事部に籍を置き、海外赴任者の語学教育にも携わっていました。ある時、技術者がミラノに赴任することになり、日本イタリア会館で文法の集中レッスンをお願いするため、本人を連れて担当の先生と打ち合わせする日がやってきました。英語と構造の異なる言語を、しかも成人してから学ぶわけですから、いきなり会話のレッスンは無謀、まず文法を理解してから会話へというプログラムでした。実はそのときのご担当が、今、京都産業大学外国語学部教授でイタリア語検定協会会長も務めておられる小林 満先生でした。「本多さんもどうですか？夜に初級クラスがありますよ！」先生のこのひと言が、私にとってイタリア語を始めるご縁になりました。もともと食い意地が張って、イタリアオペラや文化にも少しばかり興味があった私は、二つ返事で入学。32才でした。会社が終わった後、週2回夜の文法コースに参加。お声がかかるぐらいだからきっと受講者が少ないんだろう、なんて勘ぐったりもしましたが、どうしてどうしてたくさんの受講者！初級文法から始まり、中級、さらに会話のクラスへと渡り歩き、アウトドア派だった私が、いつのまにか休日は家に籠って単語帳を作ったり、簡単な文を書いたり、イタリア語のマニアのようになっていました。ところが数年して父が亡くなります。私の実家はお寺で、父は住職でした。ひとり息子の私は会社を辞めて、後を継ぐことになります。それからは寺の住職としての仕事と趣味のイタリア語磨きの日々でした。

いくらか自信が付き始めたころ、目標を作りたくなくなりました。勉強してきた証（あかし）が欲しいと思い始めたのです。通訳案内業（現通訳案内士）という資格があると知り、40代半ばで何とか試験に合格します。ありがたいことに、資格を取ると仕事がいよいよ入ってきます。商業翻訳、さらには通訳ガイド。教えることに興味があった私はとうとう日伊学院の大阪校（現大阪日伊学院）を訪ねます。あれこれ自己PRしてどうにか文法と和文伊訳コースの講師のポストを得ました。それから10年以上、たくさんの生徒さんを指導させていただき現在に至っています。イタリア語にそこまでのめり込んで、いったいお寺の仕事はいつやってくるんですか？と不審に思

われそうですが、そこはうまく両立させています。何と言ってもイタリア語が好きですから。

どうしてここまでイタリア語にのめり込むようになったのか。私にとってのイタリア語の魅力ですね。それはオペラに代表されるように音の流れの美しさでしょうか。ときにコマーシャルなどでコミカルに誇張されたりもしますが、日本人にとって親しみやすい音の流れがあります。ちょっと勉強したら日本人でもイタリア語が話せそうな予感。日本語が流暢なイタリア人が周りにたくさんいるということは、その逆もありえるということ。日本人にとってイタリア語は練習すれば上手に話せる言語じゃないかなと思わせてくれるんです。実際に私がそうなったかは別としてですよ。しかし、私が学習を始めて一番魅力に感じたのは、まあこれも音の流れといえるのですが、名詞と形容詞の語尾とか、直接目的語人称代名詞と過去分詞の語尾が連動するところでした。ところがそこが初めてイタリア語を学習する者にとっては皮肉にも大きな関門になります。文法の初っ端、男性名詞、女性名詞、単数、複数、冠詞が次々に登場して、その組み合わせによって名詞や形容詞の語尾がコロコロ変わっていくところはさすがに面食らってしまいます。ですが、ここは何とかこらえて乗り切りたいところです。厄介であるだけに、理解が進んで、多少でも言葉で操れるようになった時の快感は何とも言えません。日本語や英語にもない記号を扱うような感覚というのでしょうか。これを誤りなく言葉や文章で表現するのは並大抵ではありませんが、だからこそ挑戦し甲斐があるともいえます。世界の言語の中でもトップクラスに難しいイタリア語をやっているんだという誇りは皆さんお持ちいただいているんじゃないでしょうか。文法の学習を続けていくと、こうした山にしばしばぶち当たります。だけど、しっかり本を読んで基礎を押さえれば、気がついた時にはかなりの水準までアップしているはずですよ。反対に、それぞれの関門を中途半端な理解で満足して、先に進んでいくと、長い間学習していたつもりが、基本的な理解が不十分なために読み書き、会話ができないということにもなります。くじけそうになっても、もうひと踏ん張りがんばろうとの気概で上を目指して、目標を作って学習に励んでいただきたいものです。日々学習すれば学習しただけの結果はついてきます。レベルの向上は学習時間の総計に比例すると私は思っています。

大阪日伊学院講師 本多 孝昭



本多 孝昭 著:ベレ出版
本気で学ぶイタリア語
MP3 CD-ROMつき

初級者向けに文法事項を一通りわかりやすく解説しており、豊富な練習問題を解いていけば自然にイタリア語の基礎文法が身につくようになっていきます。



本多 孝昭 著:ベレ出版
本気で学ぶ中・上級イタリア語
CD2枚つき

中・上級学習者が体系的に、より深く文法を理解できるよう、豊富な例文とともに例外や限界事項なども徹底的に解説しており、学習者の不明点に答えられる一冊です。

<7度の挑戦を仕事のパワーに>

イタリア語検定1級合格。思えば、長い道のりだった。2007年からのチャレンジで7度目の正直により、2015年12月ついに合格。第1回目のことは、今でもよく覚えている。2級を受けるついでに試しに受験したのだが、結果はもう惨敗。3つのセクション（リスニング・文法・作文）ともなんの手ごたえもないまま見事に散ってしまった。それから合格までの8年間、2度にわたるイタリアへの長期留学を経験した。思うに、イタリア語の上達の決め手となったのは、現地でコミュニケーションなどの実践を積むのはもちろんのこと、イタリア語による読書と、気に入った短・中編小説を日本語に訳すといった学習方法だったように思う。イタリア語を読む、書く、日本語に訳すために徹底的に調べるといった作業を、毎日繰り返して行った結果、ふとした場面で単語を覚えていたり、会話をする際にも以前より言葉が淀みなく出てくるようになった。それだけではない。話している最中に文章を考えたり組み立てる余裕すらできた。イタリア語そのものに身体が馴染んできた、そんな感じだった。「習うより慣れよ」とはよく言ったものだと思う。読書と翻訳による成果が自分でも知らないうちに目にみえて現れるようになった。その時に感じたのは、外国語というものは、ひとつの単語に単に数回だけでなく、それこそ何十回、何百回と接してはじめて自分のものになるのではないかということだ。そういえば、学生の頃にとっていたイタリア語の授業で、今でも印象に残っている、ある教授の言葉がある。「語学の勉強は机に向かって辞書をひきながらひとりでするもの。それ以外に上達の道は無し！」確かそんなような内容だったと記憶している。もちろん先生のこの言葉は、すべての学習者にあてはまるという訳ではないが、それでも外国語習得の核心をついていると思う。

さて、自分なりの勉強方法で全体としてのイタリア語のスキルは上がったが、かといって1級に受かるかといえば、そうは問屋が卸さなかった。読書で培った単語力で何とかなるだろうとタカをくくっていたが、実際にはそれほど甘くなかった。留学のおかげでリスニングの能力は飛躍的に伸び、作文については平易な文章でも自分の知っている言葉で正確に書くことで満点を得られるようになっていた。ただ文法のセクションで思うように点数が伸びず、毎回足を引っ張られることになった。ごまかしが利かない。詰め甘さが結果にもろに露呈してしまう。あと数点というところで何度悔しい思いをしたことだろう。思えば基礎的な文法の知識が不足していたのはもちろん、接続詞や前置詞、言い回しなどの表現に関する知識も圧倒的に少なかった。合格するには、「何となく」ではない正確な知識が求められるのだということを実感した。私が特に苦手としていたのは、過去の推測に用いる直説法先立未来や、指示代名詞 *ci* の用法、遠過去・大過去・前過去などの区別、非人称の *si* を用いた過去形や、受身的用法の *si* と代名小詞 *ne* の複合形などだ。ただし文法問題においても単語力は問われるので、文法のみならず、イタリア語の全体的な基礎力

を上げ、すべてのセクションにおいて、時間をかけて少しずつでも着実にレベルアップを図っていくことが大切のように思う。また文法を克服するためにも、過去の試験問題はたいへん参考になるので、できれば過去数年分の問題にあたるなどして備えておくのが得策だろう。

そうして晴れて念願の1級を手にしてからは、かねてからの夢だったイタリア語を活かせる仕事にも就くことができた。現在はイタリア製のインポート衣料を輸入する会社で働いて



いる。メールと電話によるイタリア企業や現地の工場とのレスポンス業務、クライアントが来日した際の通訳がおもな仕事内容だ。時として服のパターンや仕様書をイタリア語に訳すこともある。そんな時には、初めてお目にかかるアパレル専門用語を前に、辞書やインターネット等さまざまなツールをフル活用。まさに格闘だ。というのも、訳しただけでは実際と異なるサンプルがあがってくることもあるので、気を抜くことはできない。どの仕事にも共通して言えることだが、この仕事においてもコミュニケーションがとても重要な位置を占める。なぜなら日本人スタッフの言わんとすることを、翻訳者がきちんと理解していなければ、訳してイタリア側に正確に伝えることができないからだ。また同じ日本語でも話す人によってクセがあったり独特の表現や言い回しをすることがあるので、まずは相手に確認をして訳者自身がよく理解するよう努めることが大切だ。その上でイタリア語でじっくりくる言葉や言い回しを探して訳文を作り上げていくことになるが、ぴったりとくる訳が仕上がった時の達成感と爽快感は何ものにも代えがたい。またスタッフの国民性の違いから軋轢が生じ、双方の板ばさみとなることもある。そんな折にはナポリで学んだ *L'arte di arrangiarsi*（どうにかこうにか切り抜けること、処世術）をここぞとばかりに発揮し、うまく収まるよう、仕事が円滑に進むようにと奮闘している。よくイタリアの人々は何事にもルーズだなどと言われているが、共に仕事をする上で、大らかで親切、また伝統を重んじる職人的な気質など良いところもたくさんあるので、互いに認め合い協力しあっていくことが大切だと思う。

1級合格から早くも1年以上が過ぎた。イタリア語検定を受けてきてよかった。本当にそう思う。目指すものがあったから頑張れたし、おまけに夢も叶った。合格に向けておこなった勉強のそのどれもが今の仕事には活かされている。最近忙しいことを理由にイタリア語での読書がおろそかになりがちだ。文章を訳すことも仕事以外ではほとんどしていない。がむしゃらに本を訳していた時の、胸の高鳴りや深い感動を久しく味わっていない。新たな目標の設定が必要ということだろう。挑戦はまだ続く。

＜検定対策コラム 第7回＞
3級作文対策

3級には、記述式問題、すなわち作文問題が出題されます。实用イタリア語検定試験では、4・5級までリスニングと文法・長文問題に限られ、ただマークシートを塗りつぶすだけでしたが、3級で初めてイタリア語を文字として書き綴ることになり、リスニングや文法・長文問題とは異なる対策が必要とされます。第32回までは、3級の作文にも合格基準が設定されていました。このため、「総合得点では基準点に達したが、作文で基準点に達せず、合格できなかった」などという落胆の声も少なくなかったようです。第33回以降は、作文問題も筆記に組み込まれたため、作文を苦手としていた人にとっては、嬉しい変更になったことでしょう。ただ、試験後のアンケート結果を見ると、「作文が難しい！」という声が依然として多く、変更後も多くの人たちにとって作文が"鬼門"であることは変わらないようです。そこで今回は、作文にスポットを当てて、対策を考えてみたいと思います。

過去の問題を見ると、42回では、「過去形」で、第43回では、「現在形」で記述することが明示されています。いずれもイラストを見て描写する形式が採用されていますが、前者は時系列に9枚の絵から、後者は1枚の絵からイラストを説明する能力が問われています。模範解答を見て、まず分かるのが、それほど難しい単語や文法を用いて描写されていないことです。読むだけでしたら4級合格者でも十分に理解できるレベルでしょう。

まずは42回分。真っ先に目に飛び込んでくるのが、再帰動詞ですね(①)。svvegliarsi(目が覚める)、vestirsi(服を着る)、lavarsi i denti(自分の歯を磨く)、pettinarsi(櫛で髪をとく)、prepararsi(支度をする)と再帰動詞は5つも使用されています。そのほか、mettersi(服を着る)、addormentarsi(眠る)などと基本的な再帰動詞の現在形、近過去の活用はしっかりと書けるようにする必要があります。「朝起きて、身支度をする」または「就寝前」ような描写を説明する場合は、再帰動詞の使用は確実に求められます。

また、近過去だけではなく半過去(②)も使われている点に注意が必要です。Mentre beveva il suo caffèは「彼女は自分のコーヒーを飲んでいる間」、tutto quello che le serviva「彼女に必要な全てのもの」は半過去で示されています。近過去と半過去の区別をしっかりと学習しておかなければなりません。

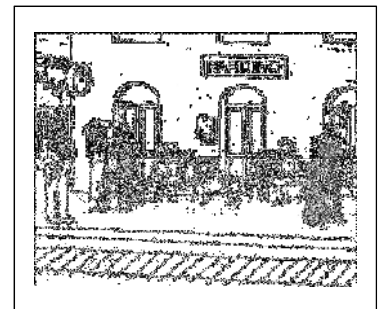


第42回

“Domenica scorsa Stefania” Guardate le illustrazioni e raccontate la storia usando il passato. (Dalle 80 alle 100 parole)

Domenica scorsa Stefania ① si è svegliata alle otto. È andata in bagno, ha fatto la doccia e dopo è andata in cucina per fare colazione. Mentre ② beveva il suo caffè, ha controllato come tutte le mattine la posta elettronica sul suo computer. Poi ① si è vestita, ① si è lavata i denti, ① si è pettinata e ① si è preparata per uscire. Ha messo in un borsone tutto quello che le ② serviva, ha preso la macchina ed è andata in piscina. Ha nuotato per almeno un’ora. Dopo è andata a pranzo dai suoi genitori, che abitano in campagna. (100 parole)

一方、第43回は、現在形が指定されています。直説法現在形のほか、ジェルンディオの進行形(③)も使われているのが見て取れます。③ stanno cercando と sta ascoltando。前者は主語が3人称複数、後者は3人称単数です。ジェルンディオの進行形は、活用させた stare にジェルンディオ現在を加えるだけとそれほど難しくはありませんが、bere や dire 動詞のように特殊な形に変化する形を覚えておかなければなりません (bevendo, dicendo)。



第43回

Alla stazione. Descrivere l’illustrazione usando il tempo presente. (Dalle 80 alle 100 parole)
Oggi alla stazione ci sono tante persone. Sono le dieci di mattina e il tempo è molto bello. Sulla sinistra due ragazze eleganti ③ stanno cercando informazioni su internet con i telefonini per decidere dove andare. Un signore con gli occhiali legge il giornale seduto su una panchina. Accanto a lui il suo cane vuole qualcosa da mangiare. Alla loro destra una signora e sua figlia parlano del loro viaggio. Sembrano felici. C’è anche un ragazzo alto che ③ sta ascoltando la musica.

以上のほか、関係代名詞を使ったり、名詞を過去分詞で形容したりと様々なテクニックを文章に散りばめることが求められますが、何よりも大切なことはスペルを間違わないこと。特に、私たち日本人は、bとv、lとrを混同しがちです。これらをしっかりと区別して書けるように準備しておくべきです。3級の解答を見ると、中にはイタリア語を書いたことが無いように見受けられるものもあります。まずは、過去の問題を例にして、書いてみることにしましょう。できれば実際の試験を想定して鉛筆で書きましょう。はじめは、分からない単語は辞書を引いて、時間に制限を設けずに書くのも良いでしょう。そして、できればネイティブの先生にチェックをしてもらい、間違った部分をしっかりと見直すことが大切です。チェックしてもらえるような人が身近にいないという方は、語学学校に添削コースもあるので、活用してみてもいいでしょうか。

検定ニュース

>>2018 年春季、第 46 回検定が”外務省後援”となりました<<

◇2017 年秋季第 45 回試験志願者数報告

	札幌	仙台	東京	横浜	金沢	名古屋	京都	大阪	岡山	広島	福岡	宮崎	那覇	ローマ	ミラノ	計
1級	1/1	2/2	43/48	12/12	2/2	1/1	5/6	15/18	0	0	2/2	0	0	2/2	7/7	92/101
2級	1/1	6/7	126/139	16/18	1/1	12/13	17/20	41/44	1/1	0	6/7	0	1/1	5/5	8/10	241/267
準2級	1/2	4/5	112/124	29/31	1/1	17/19	16/19	28/30	1/1	3/3	14/16	0	1/1	2/2	7/7	237/263
3級	7/10	12/15	197/241	39/47	2/4	24/29	36/42	66/77	6/8	5/6	10/14	0	2/2	3/3	8/10	416/507
4級	8/12	15/16	210/248	48/57	6/7	36/36	29/37	58/67	7/8	9/9	15/20	1/1	3/3	2/2	8/10	455/533
5級	9/12	17/17	160/204	39/46	7/8	25/26	31/36	51/60	5/8	2/2	21/24	3/3	1/1	7/7	5/5	383/459
合計	27/38	56/62	848/1004	183/211	19/23	115/124	134/160	259/296	20/26	19/20	68/83	4/4	10/10	21/21	41/48	1824/2132

受験者数/志願者数

第 45 回検定でのアンケートから、受験者の感想などをピックアップしました

今回は選択回答式のアンケートも実施しましたが、集計がこの会報の入稿に間に合わなかったため、皆様から寄せられたコメントのみ、ここに紹介させていただきます。選択回答の結果は集計が済み次第 HP に発表いたしますのでご了承ください。

●試験官が優しく、とても丁寧で説明がわかりやすく助かった。●運営がスムーズ。●普段は別会場で受けているが、東京受験者はたくさんいて驚き、とても刺激になった。●水が持ち込めて良かった。●電話で対応して下さった方、ありがとうございました。(隣からの雑音回避について) ●試験開始前に音に関する注意事項(貧乏ゆすりなど)を喚起してくれたことは良い。●周囲の人のひとり言が気になった。次回、この点についても注意して欲しい。●HP に過去問サンプルがありとても助かる。●時計は用意していただなくても良い。持参するように受験票に記載されているので、終了 5 分前のコールで十分。●今後も良問の作成をお願いしたい。●英検と異なり、リスニング・作文重視の出題は実用的で良い配分。●過去問題集の訳、解説は緻密で正確な日本語。解説もきめ細かく、考慮された内容であるといつも感じる。●自分よりも年配の方が多く受験していて、励まされる。●注意点を細かく指示してくれるので、ストレスなく受験できる。●リスニングの時だけ、エアコンを消して欲しいと申し出たところ、了承して頂き良かった。●通訳案内士の試験免除対象になれば、さらにやりがいが増すと思う。●3 級の作文問題は不安だったが、イラストを見て想像して記述する出題形式で、妄想が膨らんだ。文章力はまだまだだが、テストを終えた時、笑顔がこぼれていた。●中年を過ぎてからのイタリア語学習だが、準 2 級を受けるまで、よくここまでこれたと思う。チャレンジすることが大事。●そのうち受ければよいかと考えていると、勉強をさぼってしまうので思い切って受験した。●全く書けなかった作文問題だが、イラスト 1 つを見て描写する問題よりも、複数のイラストを並べることで「これはどう表現するのだろう」と自分が使えない表現と新しい問題に直面する度に認知できるので、非常に学習のためになる。●GW 後、ゆるく勉強していたが、受験を申し込んだ途端、勉強に気合いが入り、学習が進んだ。●文法事項など段階を追って勉強できるのが良い。

●事務局よりホームページ活用のお願い www.iken.gr.jp

イタリア語検定試験のお知らせだけでなく、イタリア関係の情報・学校・リンク集など情報を満載しております。過去の問題も e-ラーニング・システムで配信しておりますし、コンビニプリントで過去問も配布しています。また、情報交換の場として掲示板をご用意しています。ご活用いただければ幸いです。ご要望や受験・お仕事体験談等、メール (info@iken.gr.jp) でお寄せください。

<2018 年度の試験日程ご案内>

◆第 46 回 2018 年 3 月 4 日(日)

◆第 47 回 2018 年 10 月 7 日(日)

▶伊検公式 LINE スタンプができました◀

伊検ならぬ伊犬のイタリアン・グレイハウンド、Iken 君と、その彼女の Ali ちゃんの楽しいスタンプで LINE の会話を楽しんでください! 日本語もついています。



ベレ出版より検定受験者待望の単語集が発売されます。ジャンル別に分類され、各単語には検定の該当級が明記。検定対策として最適の一冊に仕上がっています! (検定協会事務局スタッフ執筆)

MP3 CD-ROM 付き
佐藤 徳和、北野 美絵子 ジュリア (著)